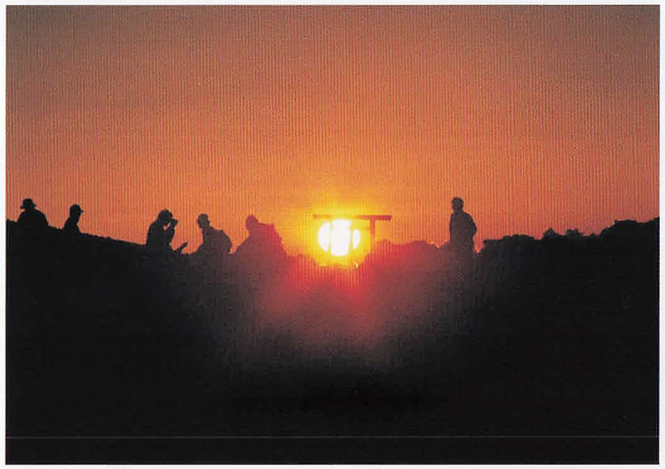
富士曼荼羅図(重要文化財)

富士山信仰による登拝の情景を描いたもので、室町末期狩野元信の作と伝えられています。絹本著色(180.0×117.5cm)

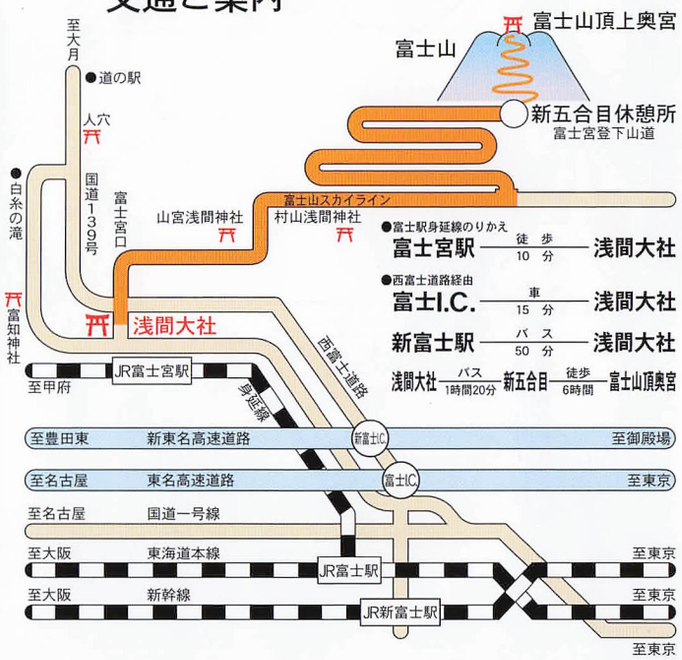
「日本の大和の国の鎮めともいます神かも、宝ともなれる山かも」と、万葉歌人高橋蟲麿が詠んだように、古来富士山は大和民族の心のよりどころとして信仰されてまいりました。この霊峰を御神体として鎮まります神は、浅間大神、又の名を木花之佐久夜毘賣命と申し上げます。

第七代孝霊天皇の御代に富士山が噴火して、国中の荒廃久しきに及んだので、第十一代垂仁天皇三年(前二七)に富士の山霊を鎮める為、山足の地に浅間大神をお祀りしました。その後、第五十一代平城天皇大同元年(八〇六)に坂上田村麿が勅を奉じて、現在の地に社殿を造営したと伝えられています。

古より朝廷、武家の尊崇篤く、延喜の制では名神大社に列せられ、駿河国一宮、又全国一、三〇〇余の浅間神社の総本宮として崇敬されてきた東海最古の名社です。


富士山頂御来光(駒ヶ岳より)

交通ご案内



富士山本宮浅間大社
(ふじさんほんぐうせんげんたいしゃ)

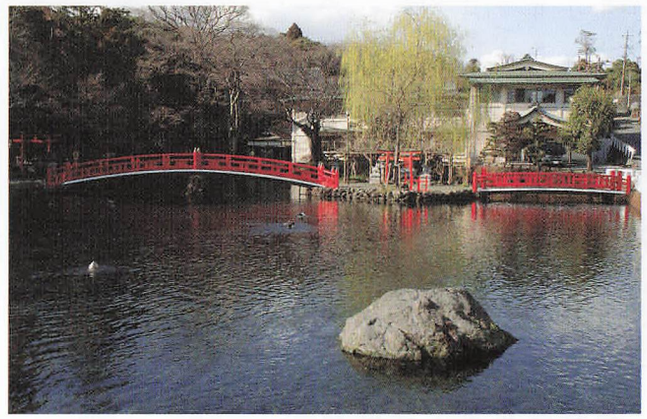
〒418-0067 静岡県富士宮市宮町1-1
TEL(0544)27-2002(代)
FAX(0544)26-3762
HP http://www.fuji-hongu.or.jp/

富士山本宮浅間大社
(ふじさんほんぐうせんげんたいしゃ)

この御社が登拝の起点となります。御祭神は、木花之佐久夜毘賣命、相殿に背の君天孫瓊々杵尊、父神大山祇神をお祀りします。
本殿、拝殿、楼門は徳川家康の寄進によるもので、浅間造りと称される二階建て楼閣造の本殿は、国の重要文化財に指定されています。11月3・4・5日に行われる御例祭の他、源頼朝の奉納に由来する勇壮な流鏑馬祭が、5月4・5・6日の3日間行われます。

湧玉池
(わくたまいけ)

富士山の湧水をたたえる特別天然記念物湧玉池があります。この湧水は、神の霊徳のこもった水であり、特に近年は多くの方々がこの水を受けに来られます。登拝に際しては、この清らかな水で身を浄める習わしがあります。



頂上奥宮（おくみや）

表口（富士宮口）御殿場口から登りつめたところの山頂に鎮座します。御祭神は、浅間大神（木花之佐久夜毘賣命）を主祭神とし、相殿の神として、背の君天孫瓊々杵尊、父神大山祇神をお祀りします。八合目以上は奥宮の御神域であります。

御例祭は、八月十五日に行われ、世界の平和と国の弥栄を祈念します。

▶剣ヶ峰より大内院（噴火口）を拝す

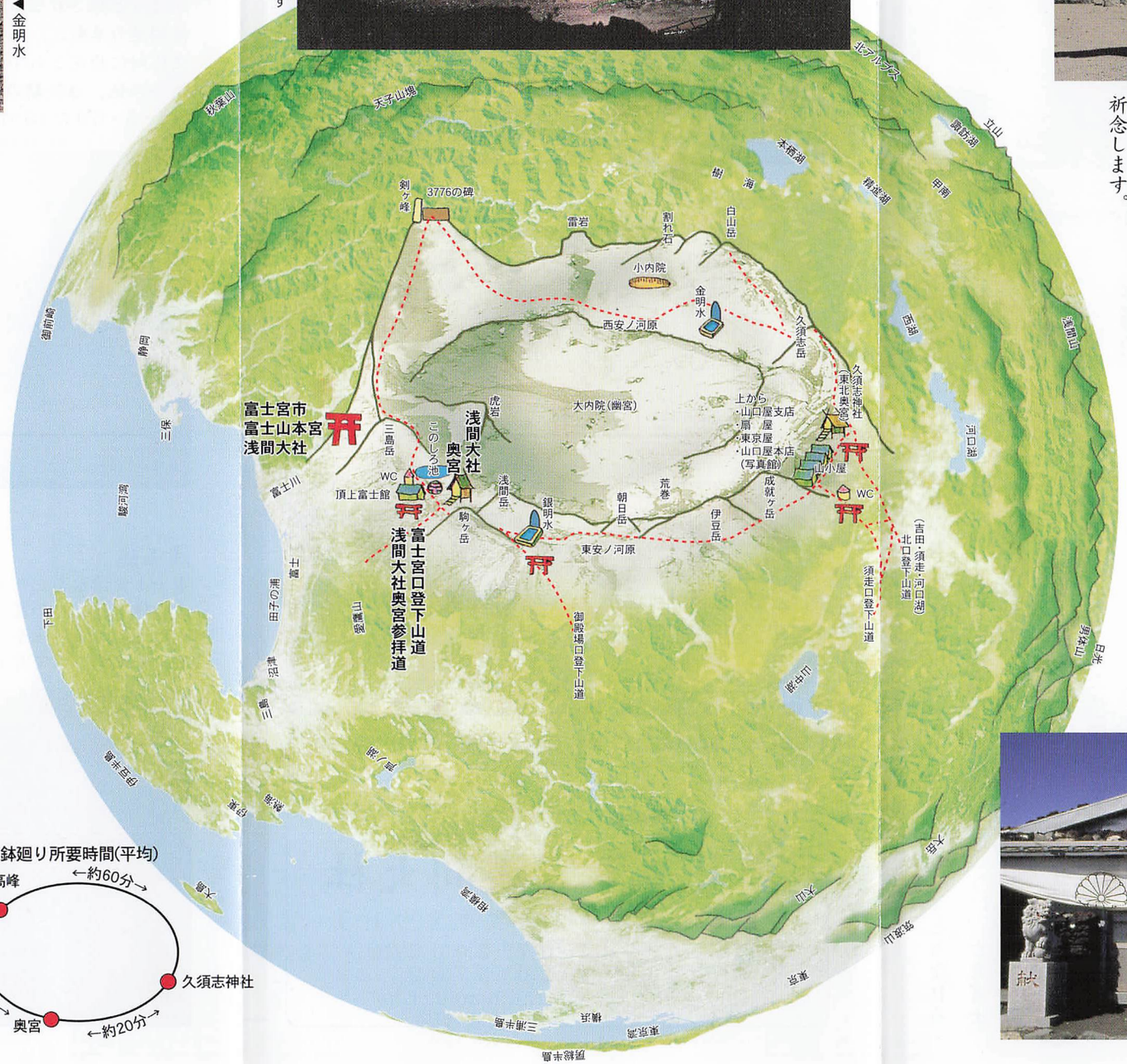
▶銀明水

◀金明水

金明水（きんめいすい）・銀明水（ぎんめいすい）

頂上の起伏によるわずかな落差によって湧く御霊水です。登拝者はこのお水をうけて浅間大神の御神徳を戴くのです。

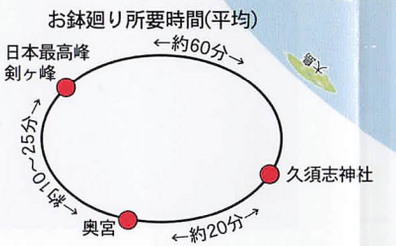
金明水は、久須志神社の西北方、白山岳の麓に、銀明水は、御殿場口登下山道の起点にそれぞれあります。



東北奥宮（久須志（くすし）神社）

須走口、吉田口、河口湖口の各登山道を登りつめたところの頂きに鎮座します。この神社は奥宮の末社であり、医薬の神様大名牟遅命、少彦名命をお祀りします。御例祭日は、奥宮と同じ八月十五日です。

又、両社では家内安全等の諸祈祷の奉仕、並にお札、お守、縁起物等の授与、金剛杖、行衣等の頂上印（御朱印）を授与しております。

登拝（とはい）・お鉢廻（はちまわ）り

富士山の御神徳を拝しながら登山する事を登拝といいます。古文献などから、富士登拝が古くから行われた様子が伺われます。平安時代末には山頂に祠堂が建立され、江戸時代始めには、行者藤原角行が富士登拝を盛んに行ったことから庶民に広まり、次第に発展して、富士講という団体の登拝が行われるまでになりました。御山で見掛ける白装束は、その講社の人々です。登拝者は金剛杖をつき、「六根清浄（ろっこんしょうじょう・目、口、耳、鼻、身、心に不浄なものがない事を願う祓詞）」を唱えながら登ります。山頂に着いたら奥宮にお参りし杖印をいただき、お鉢廻りと言う火口廻りをします。その内、剣ヶ峰が一番高く、標高三、七七六メートルの、日本最高地点となっています。